PMS-2414(19123)

施工説明書

キッチン用ハンズフリー水栓（浄水器ビルトイン型）

JF-NA411S型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
●いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警告 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」

注意 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ …… 「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

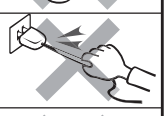
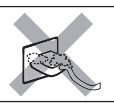
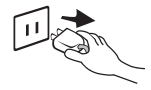
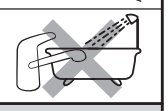
(禁止) …… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

(水場禁止) …… 「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません!」

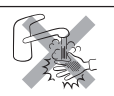
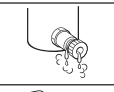
(分解禁止) …… 「分解してはいけません！」

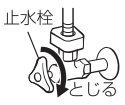
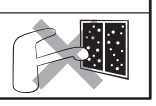
(指示) …… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠ 警　告

(分解禁止)	**修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。** ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。	
(禁止)	**水につけたり、水をかけないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の恐れがあります。	
(禁止)	**電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っぱったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。** ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。	
(禁止)	**電源プラグを濡れた手で触れないでください。** ※感電の原因となります。	
(禁止)	**電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。** ※発火、ショート、感電の原因となります。	
(禁止)	**交流100V（50/60Hz）以外では使用しないでください。** ※発火、ショート、感電の原因となります。	
(禁止)	**直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。** ※火災の原因となります。	
(指示)	**給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。** ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	**電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。** ※電源プラグにホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。	
(指示)	**電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。** ※発火、ショート、感電の原因となります。	
(水場禁止)	**バスルーム等の水がかかる所や、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では使用しないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	

⚠ 注　意

(禁止)	**水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。** ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水を言います。	
(禁止)	**湯水を逆に配管しないでください。** ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
(禁止)	**給湯機器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。** ※水栓が破損し、ヤケドや家財などを濡らす恐れがあります。	
(禁止)	**トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンザー、クレゾールを使用しないでください。** ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	
(禁止)	**衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。** ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
(禁止)	**水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。** ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
(指示)	**ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。** ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	

(指示)	**フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側・水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。** ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
(指示)	**お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。** ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz		消費電力	常時：0.8W以下　作動時：2.5W以下
給湯器設定温度	85℃以下		使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水（※1）
使用環境温度	【一般地仕様】　0～40℃ 【寒冷地仕様】－20～40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。		
給水給湯接続	G1／2			
圧力条件	水栓単品の場合	0.06MPa(流動時)～0.75MPa(静止時)	給水圧力≧給湯圧力 ※2	
	キッチンくるりんと接続の場合	0.07MPa(流動時)～0.75MPa(静止時)		
感知距離（グレーカード：80mm角）	タッチレスセンサー	約40mm	感知エリア幅	タッチレスセンサー　約φ5mm
	自動センサー	約130mm(ロングモード:約150mm)吐水中約200mm		自動センサー　φ10mm以下
電源コード長さ	1170mm			
取付条件	水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：5～30mm			

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例制御式：24号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

	水栓単品の場合	キッチンくるりんと接続の場合 ※1
最低必要圧力	A＋0.09MPa(流動時)	A＋0.10MPa(流動時)：給湯器設定温度60℃ A＋0.07MPa(流動時)：給湯器設定温度42℃
最高圧力	0.75MPa(静止時)	

●Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
※1：給湯器設定温度が75℃以上の場合は、最低必要圧力は、0.12MPaとなります。着火しない場合は設定温度を下げてください。
測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開。
●給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

	水栓単品の場合	キッチンくるりんと接続の場合
最低必要圧力	0.07MPa(流動時)	0.07MPa(流動時)
最高圧力	0.75MPa(静止時)	

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20～0.34MPa)に減圧してください。
●給湯器に蒸気は使用できません。
●給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
●不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下 をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

●取付けには専用工具(KG-1またはKG-2)またはソケットレンチ(対辺24)、スパナ(対辺23、21)、プラスドライバー、マイナスドライバー、精密ドライバー(マイナス)が必要です。

止水栓を設けてください。

●取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
●使い勝手や性能発揮のために 流量調節をしてください。 特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

●取付後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

●カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。

配管・配線について

●給水は水道水に接続してください。
　※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
　※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
●万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
●電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。（現場手配）
●電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
●コンセントは、電源プラグの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
　※隠蔽部には設けないでください。
●水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
●必ず 配管中の異物を完全に洗い流してください。

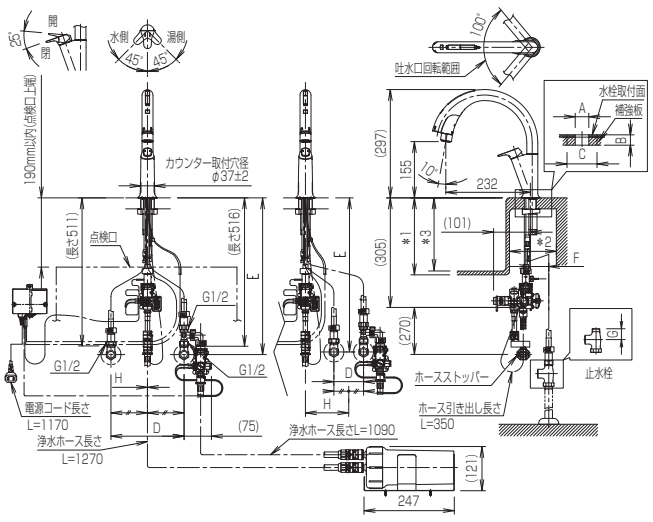
その他の注意点

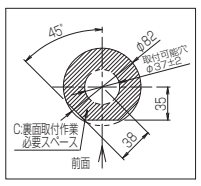
●商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
　※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
●センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
●インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
●直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因となります。

株式会社 LIXIL　●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センターまで
ナビダイヤル TEL 0570-017-173
受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日　9:00～17:00
（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

施工完了図

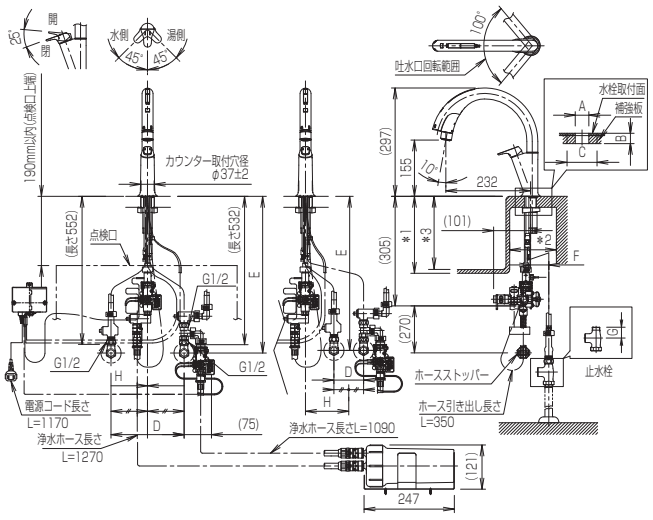
JF-NA411S型



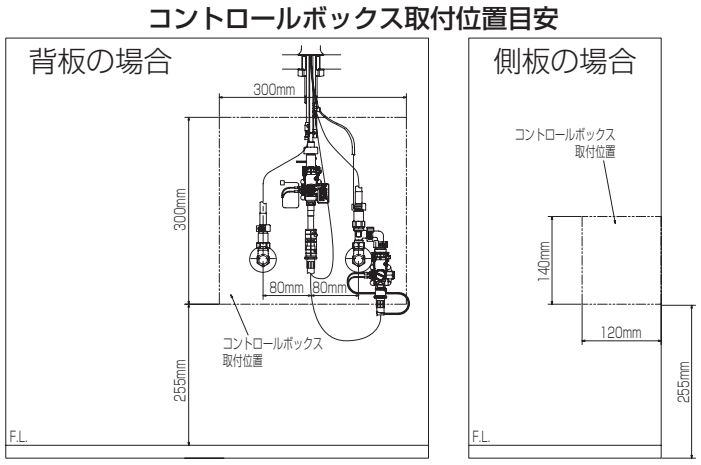


	中心振分けの場合	片側偏芯の場合
A.取付可能穴径	φ37±2mm	
B.取付可能カウンター厚さ	6~30mm	
C.裏面取付作業スペース寸法	図に示す範囲以内	
D.給水.給湯止水栓芯々寸法	200±10mm	80~100±10mm
E.水栓取付面から給水.給湯用止水栓中心までの寸法	400±10mm	360±10mm
F.水栓中心から給水.給湯の止水栓接続中心までの寸法	0~~50mm	
G.止水栓の標準寸法	30~35mm	
H.水栓中心から給水.給湯芯々の中心までの寸法	0mm	120~150mm

JF-NA411SN型

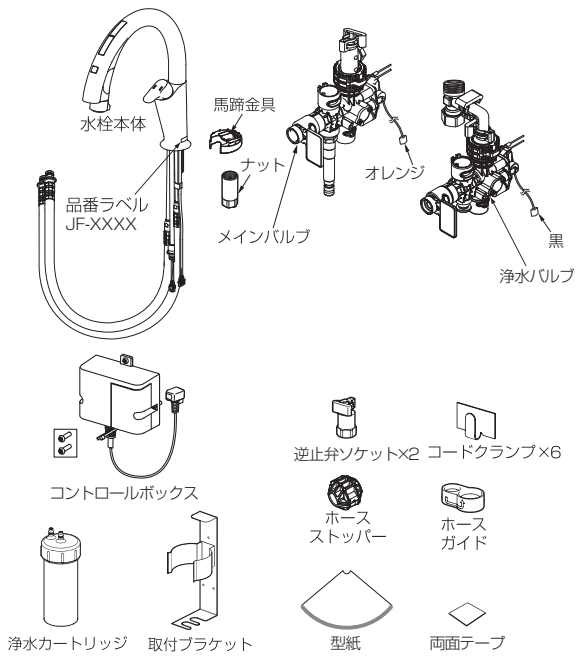


コントロールボックス取付位置目安

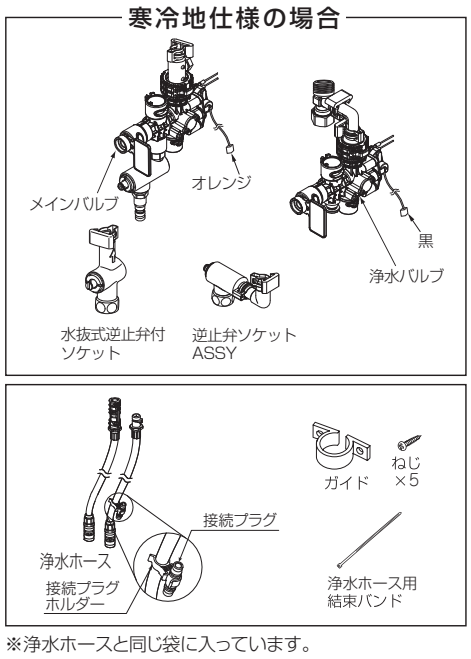


●品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
●シンク深さ(厚み含む)*1寸法が220mm以上の場合は*2寸法が145mm以上ないと、バルブがシンクと干渉し施工できません。*1寸法が220mm以上かつ*2寸法が145mm未満の場合は当社お客さま相談センターまでお問い合わせください。
●水栓取付面から上方425mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
●使用時には、375mm以内に他器具（昇降キャビネットの取っ手を含む）のないようにしてください。
●水栓取付面からシンク下の底板（棚板）までの距離が540mm以上ないと、ホース収納時に底板（棚板）との干渉が大きくなり、使用上問題はありませんが、ホース収納性が悪くなります。
●コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。
●センサーが誤感知する恐れがありますので、寸法*3を150mm以上の空間を確保してください。
●吐水口の下にカウンターやサポートプレート等を置いた時、センサーが誤感知する恐れがあります。
●No4仕上げ以上のステンレスシンクへ設置しないでください。（詳細はステンレス協会HP「ステンレスの主な表面仕上げ」参照）センサーが誤検知する恐れがあります。

部品の確認

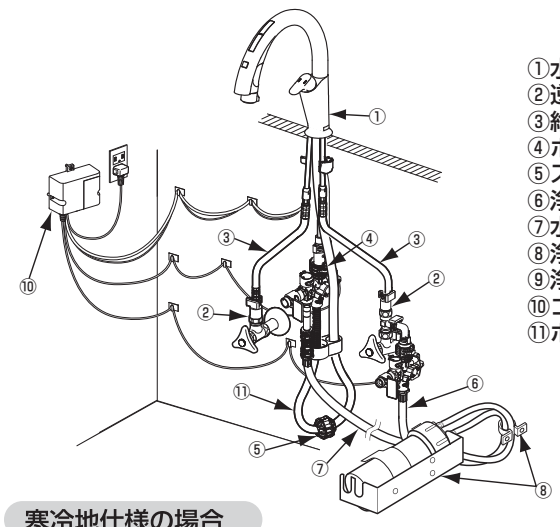


寒冷地仕様の場合



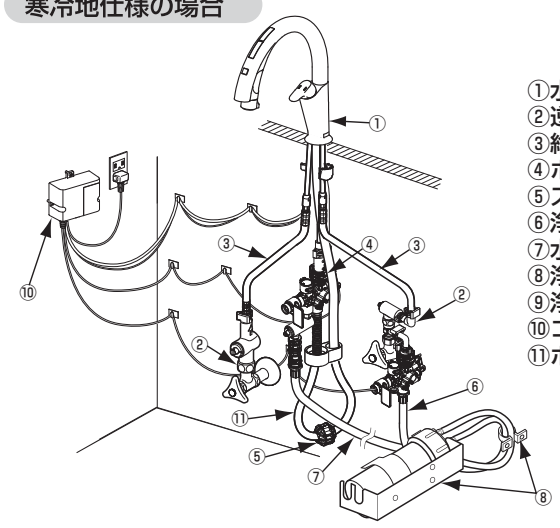
※浄水ホースと同じ袋に入っています。

2. 施工手順



①水栓本体を固定する
②逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続
③給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
④ホースとメインバルブの接続
⑤ストッパーの固定
⑥浄水バルブと浄水ホースの接続
⑦水栓本体と浄水ホースの接続
⑧浄水カートリッジ取付ブラケット･ガイドの取付け
⑨浄水ホースの配管接続
⑩コントロールボックスの接続と設置
⑪ホース収納性の確認

寒冷地仕様の場合



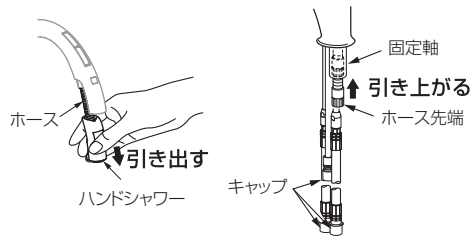
①水栓本体を固定する
②逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続
③給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
④ホースとメインバルブの接続
⑤ストッパーの固定
⑥浄水バルブと浄水ホースの接続
⑦水栓本体と浄水ホースの接続
⑧浄水カートリッジ取付ブラケット･ガイドの取付け
⑨浄水ホースの配管接続
⑩コントロールボックスの接続と設置
⑪ホース収納性の確認

3. 施工方法

以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

① 水栓本体を固定する

1. ホースの先端が固定軸の中に隠れるまでハンドシャワーを引き出す。

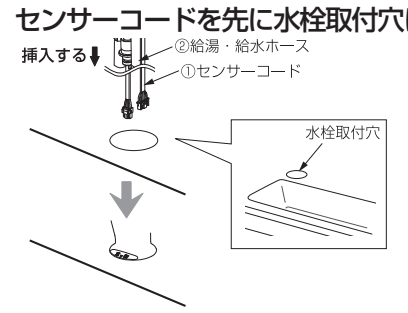


注 意

落下注意
傷や破損の原因となります。

落下注意
先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミがかみ込むことで漏水の原因となります。

2. センサーコードを先に水栓取付穴に挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



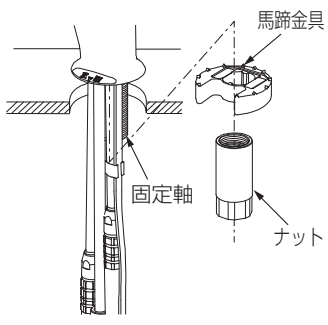
ポイント

ホースの先端が固定軸の中にかくれた状態で取付穴に挿入する。

注 意

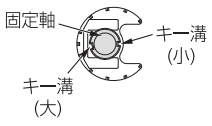
センサーコードをはさまないようにしてください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。

3. 馬蹄金具を固定軸に挿入してナットで仮固定する。水栓本体が取付穴の中央にくるように注意する。

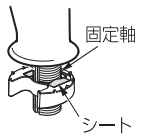


ポイント

●固定軸にキー溝（大、小）があるため、馬蹄金具をキー溝に合うように取り付ける。



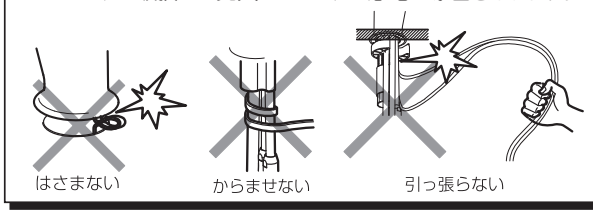
●馬蹄金具から手を離しても落ちてこないように、一時的に固定軸に引っ掛けられるようになっています。



●馬蹄金具・専用工具が入りにくい場合は、銅管を曲げて銅管とナットの間にスペースを作ってください。（曲げ角度は5°以内のこと。
※曲げすぎると配管を傷つけ漏水の原因となります。

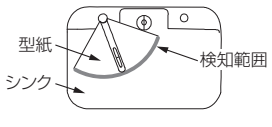
注 意

●センサーコードをはさみ込んだり、引っ張ったり、銅管にからませないでください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。

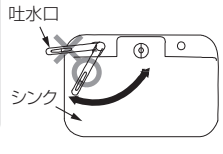


●別売の専用工具（KG-1またはKG-2)もしくは市販のソケットレンチ（対辺24）を使用してください。
※ナット締付不足によりガタつきやキャビネット内への漏水の原因となります。

4. 同梱の型紙を使って、「検知範囲」がシンク内に納まるように水栓正面を決めてください。



5. 吐水口を左右に回転させ、シンク外に吐水口が出ないか確認する。



注 意

シンク外に吐水口が出るとカウンターを感知し、自動吐水する場合があります。

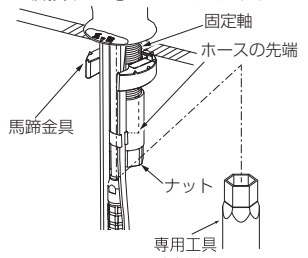
6. はみ出す場合は、ナットを少し緩めて吐水口がシンク内に収まるように水栓本体を回転させ、位置調整する。その後、壁紙をはずしてください。

7. ナットを増し締めし、水栓本体をしっかりと固定する。

8. 正面シールをはがす。

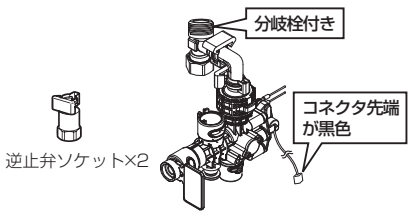
注　意

ホースの先端が固定軸の中にかくれた状態でナットを締め付けてください。
※ホースが専用工具に絡まり、破損する恐れがあります。

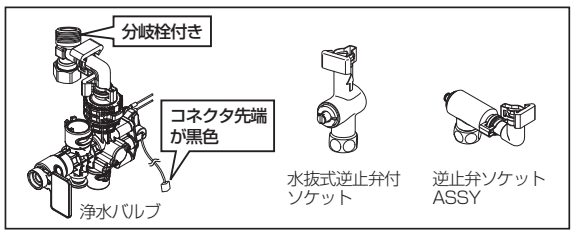


② 逆止弁ソケット・浄水バルブと止水栓の接続

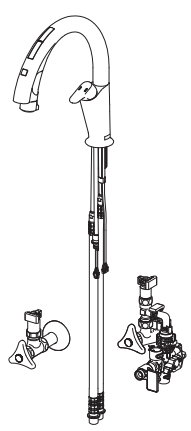
②で使用する部材



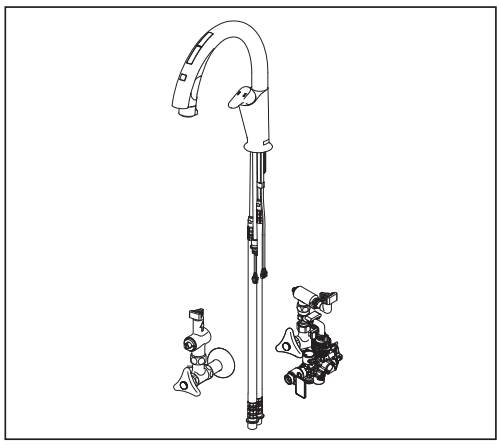
寒冷地仕様の場合



②終了時の施工状態

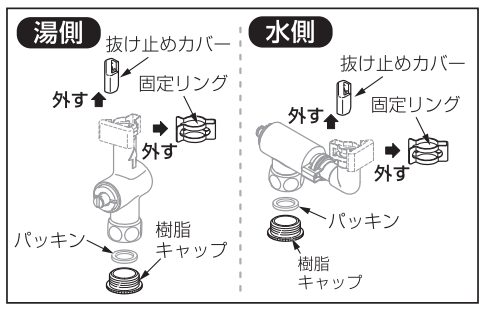


寒冷地仕様の場合



1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。

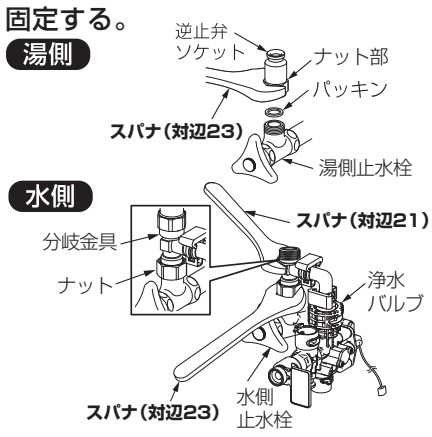
寒冷地仕様の場合



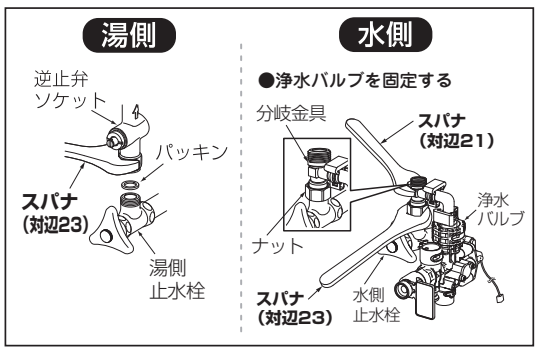
注　意

パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。

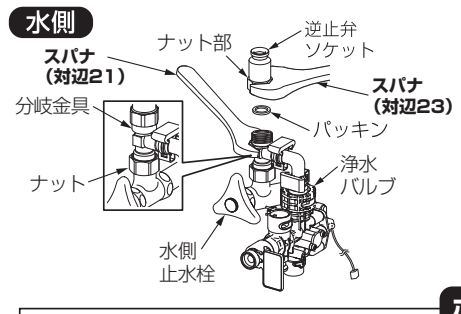
2. 逆止弁ソケットを湯側止水栓に、浄水バルブを水側止水栓にスパナ(対辺23)で固定する。



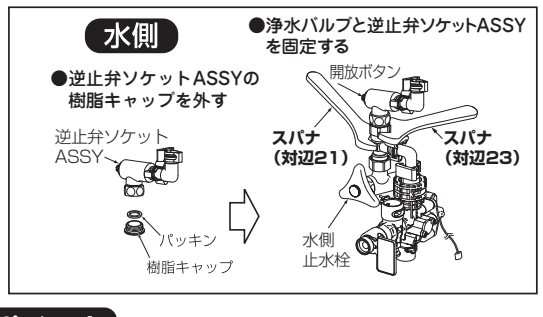
寒冷地仕様の場合



3. 浄水バルブと逆止弁ソケットを固定する。

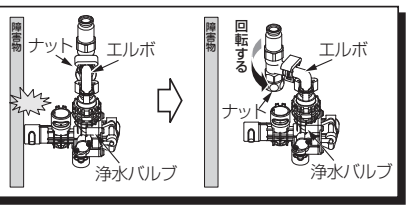


寒冷地仕様の場合



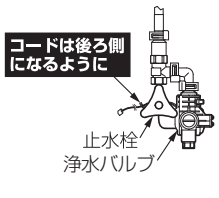
ポイント

浄水バルブが障害物と干渉してしまう場合には、ナットの上についているエルボの向きを壁側に回転させた後、ナットを固定して干渉を回避する。

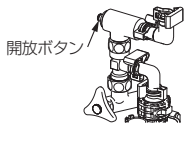


注　意

●右図のように、浄水バルブは必ず止水栓の右側に取り付け、コードが出ている部分を後ろに向けてください。
※発火、ショート、感電、故障の原因となります。

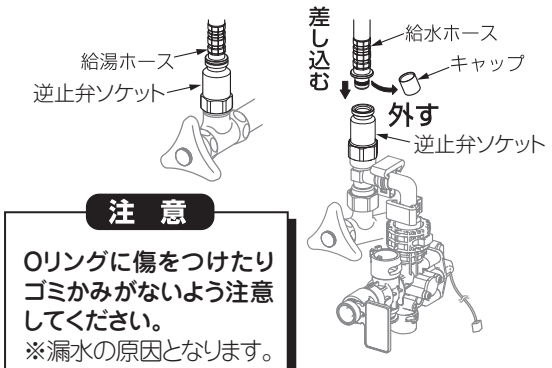


●(寒冷地仕様の場合)逆止弁ソケットASSYの開放ボタンは操作できる向きに施工してください。
※開放ボタンが操作できないと、水抜きができなくなり、漏水の原因となります。



③ 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

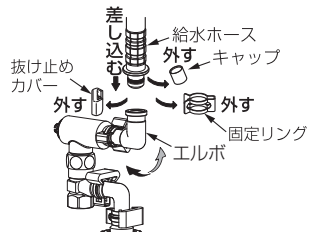


注　意

Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

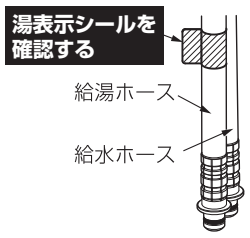
寒冷地仕様の場合

●給水ホースが差し込みにくい場合には、エルボを傾けて差し込んでください。

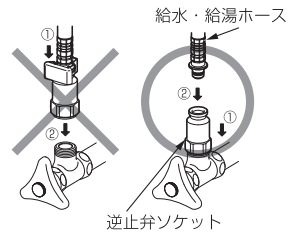


注　意

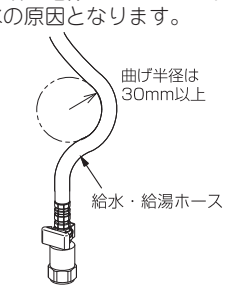
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。



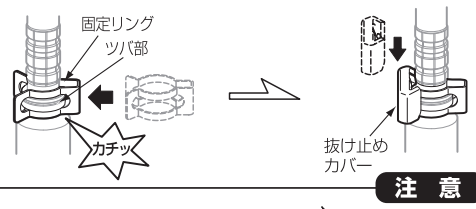
●必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因となります。



●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。



2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

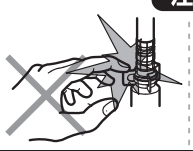


確　認

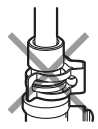
給水・給湯ホースを上に引き、外れないこと。

注　意

●抜け止めカバーをはめ忘れないようにしてください。
※リングに触れるとケガをする恐れがあります。



●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

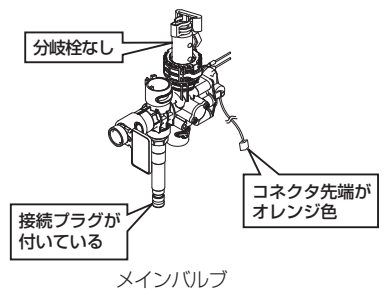


キッチンくるりんと接続の場合

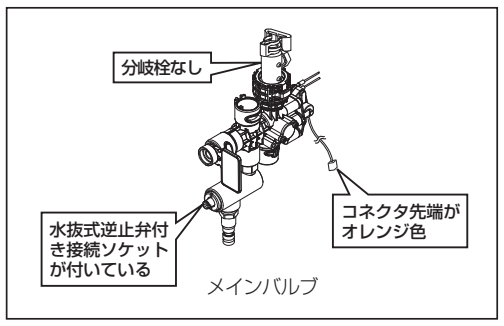
キッチンくるりんと接続の場合は、キッチンくるりん（KS-800)に同梱の取付設置説明書に従い、水栓本体に接続してください。

④ ホースとメインバルブの接続

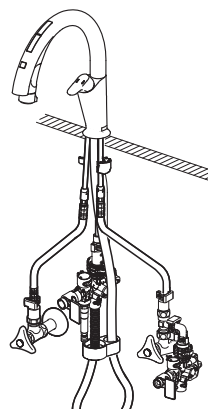
④で使用する部材



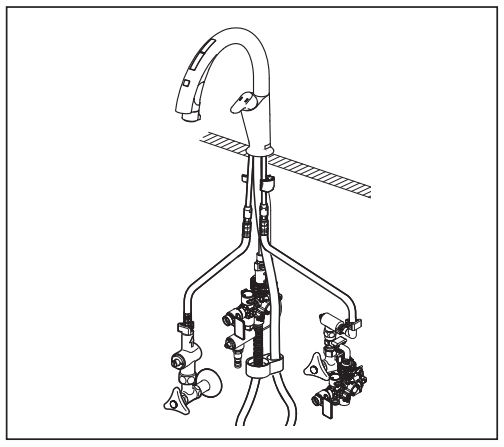
寒冷地仕様の場合



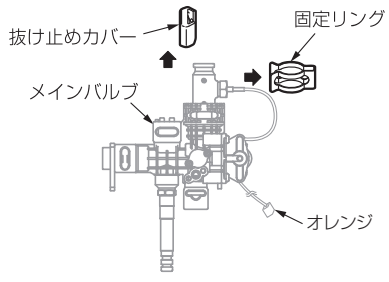
④終了時の施工状態



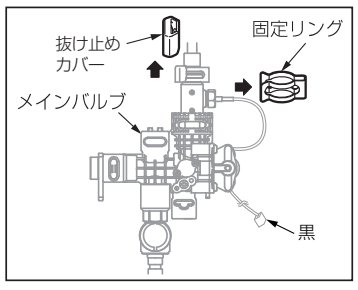
寒冷地仕様の場合



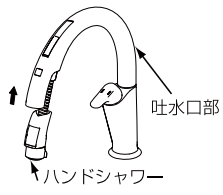
1. メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。



寒冷地仕様の場合

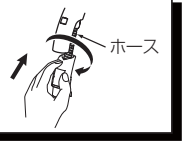


2. ホースについているタグをはずし、ハンドシャワーを吐水口部に収納する。

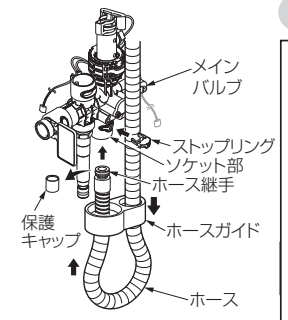


ポイント

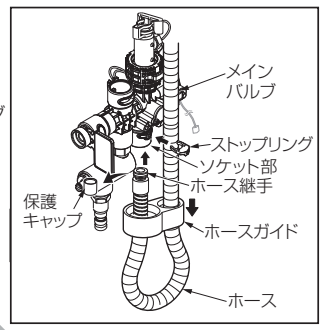
ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させる。



3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ホースがメインバルブの端子と干渉しないように、メインバルブの右側にもってくる。ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。

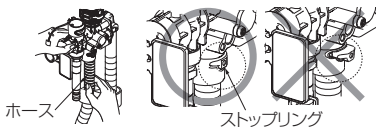


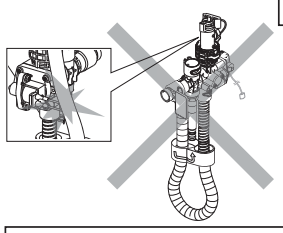
寒冷地仕様の場合



ポイント

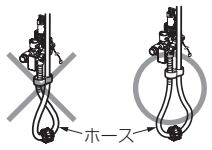
メインバルブを手で持ち、ホースを挿入した後、ストップリングをしっかりとはめ込んでください。(ストップリングが外れると漏水の原因になります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストップリングがソケットからはみ出ていないことを確認してください。





注　意

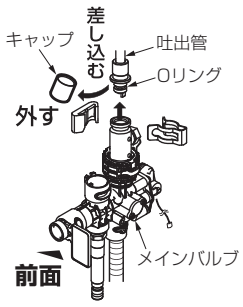
ホース継手を接続する際はホースがねじれないようにしてください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。



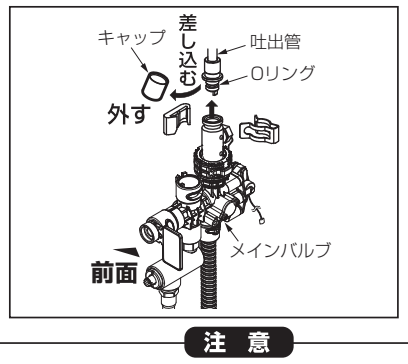
注　意

●ホースはメインバルブの右側にくるようにし、ホースとメインバルブの端子が干渉しないようにしてください。
●ホースは浄水バルブに接続しないでください。

4. メインバルブを吐出管に接続する。

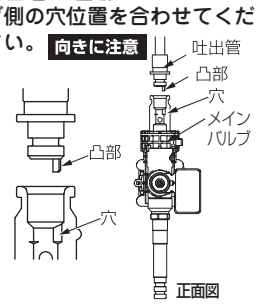


寒冷地仕様の場合



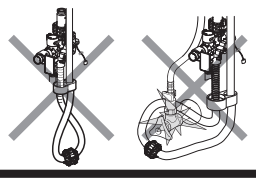
ポイント

吐出管の凸部とメインバルブ側の穴位置を合わせてください。 **向きに注意**

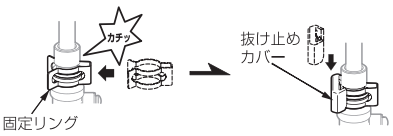


注　意

●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。
●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因となります。

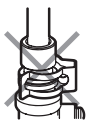


5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注　意

固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

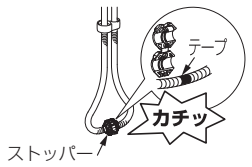


⑤ ストッパーの固定

テープを覆うようにストッパーを取り付ける。

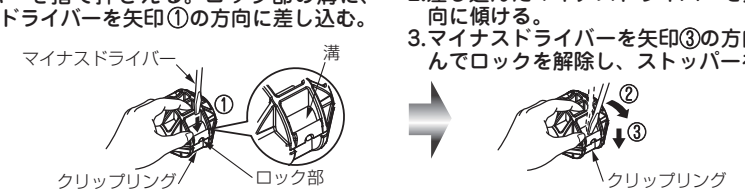
ポイント

ハンドシャワーは吐水口に納めた状態で行う。



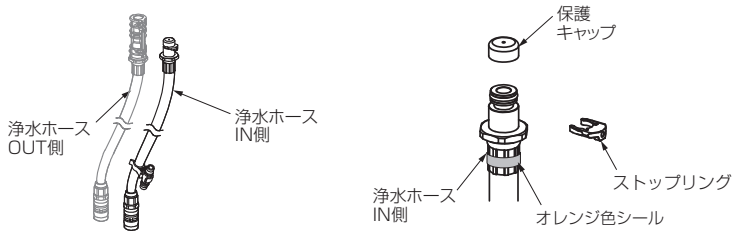
ポイント

ストッパーの外し方
1.ストッパーを指で押さえる。ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差し込む。
2.差し込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾ける。
3.マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外す。

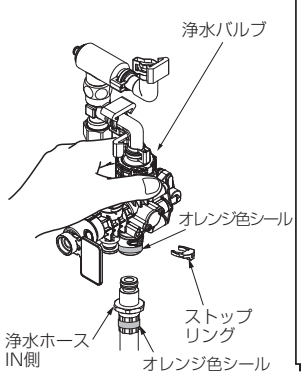


⑥ 浄水バルブと浄水ホースの接続

1. 浄水ホースIN側についている保護キャップとストップリングを外す。

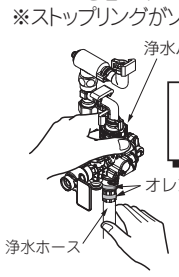


2. 浄水バルブを手で持ち、浄水ホースIN側を浄水バルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。



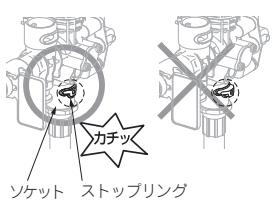
ポイント

浄水バルブを手で持ち、浄水ホースを挿入した後、ストップリングをしっかりとはめ込んでください。(ストップリングが外れると漏水の原因になります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストップリングがソケットからはみ出ていないことを確認してください。



ポイント

オレンジ色のシールを合わせる。



注　意

ストップリングは、しっかりとはめ込んでください。
※ストップリングが外れると漏水の原因となります。

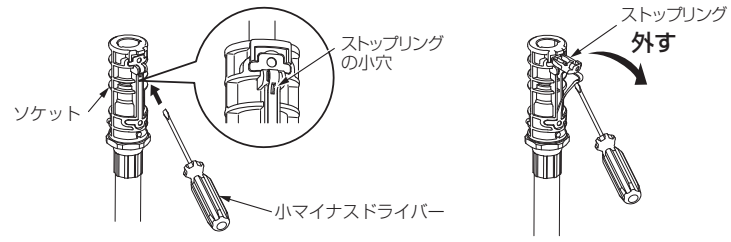
確　認

浄水ホースを引っ張っても抜けないこと。

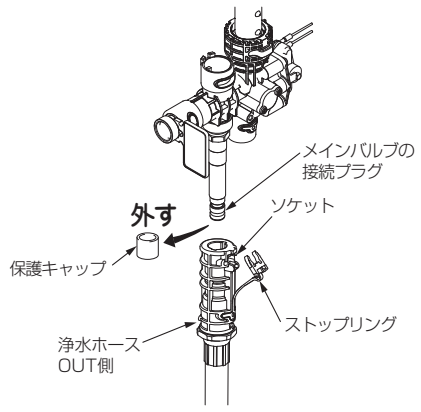
⑦ 水栓本体と浄水ホースの接続

ソケットについているストップリングの上側とメインバルブの接続プラグの保護キャップを外してソケットに差し込み、ストップリングをソケットにはめてください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。

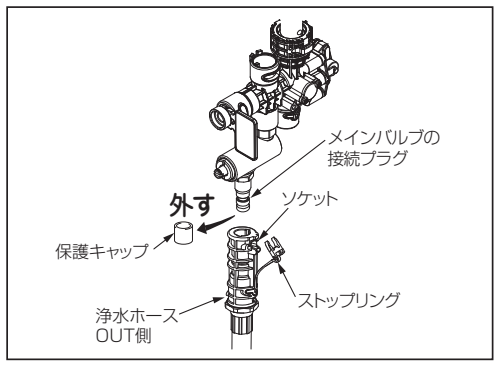
1. ソケットのストップリングの上側にあるストップリングの小穴に小マイナスドライバーを差し込んで外してください。



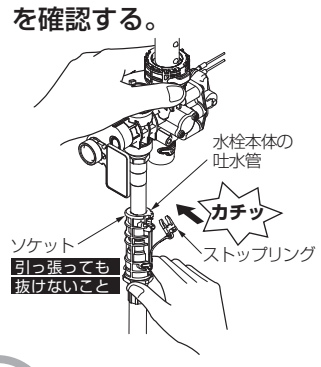
2. 浄水ホースOUT側のソケットをメインバルブの接続プラグに差し込む。



寒冷地仕様の場合

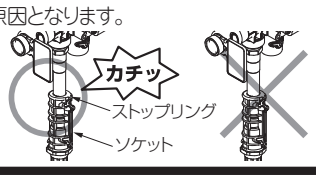


3. ストップリングをソケットに差し込んだ後、ソケットを引っ張っても抜けないことを確認する。



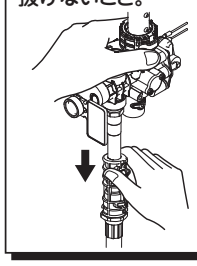
注　意

●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
●ストップリングがソケットの溝に納まっていることを確認してください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。



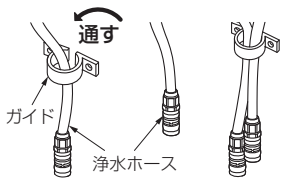
確　認

ソケットを引っ張って、抜けないこと。



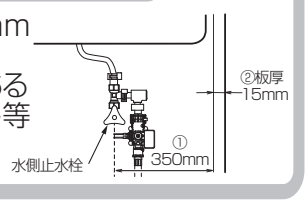
⑧ 浄水カートリッジ取付ブラケット・ガイドの取付け

1. ガイドに浄水ホースを通す。



キャビネット内側面固定の条件

①水側止水栓から350mm以内である
②板厚が15mm以上である
③右側面に扉や引き出し等の干渉物がない

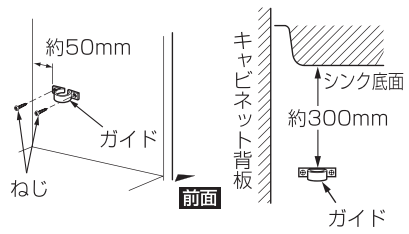


【条件にあてはまる場合】

2. ねじでガイドを指定の位置に固定する。

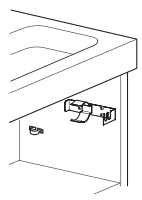
ポイント

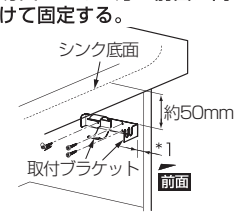
ガイドを床と平行になるように固定し、まわりに障害物(スライド収納等)がある場合は、干渉しない位置に調節する。



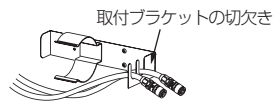
3. ねじで取付ブラケットを指定の位置に固定する。

切欠きがある方を前面に向けて固定する。





切欠きはカートリッジ交換の際、浄水ホースを引っ掛けておくためのものです。



*1:キャビネット内側面が水側止水栓から300mm未満の場合は約30mm、300mm以上の場合は約100mm

【条件にあてはまらない場合】

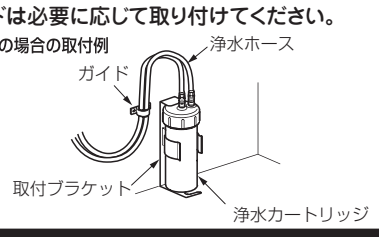
2. ねじで取付ブラケットを固定する。

背板に固定する場合

浄水バルブから浄水ホースが届く範囲で取付ブラケットを床板上に置き、背板に固定する。

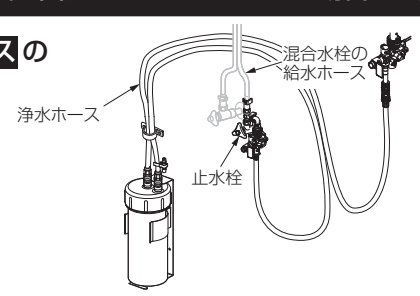
ポイント

床上の背面に取付ブラケットを固定した場合は、ガイドは必要に応じて取り付けてください。
※床上の場合の取付例



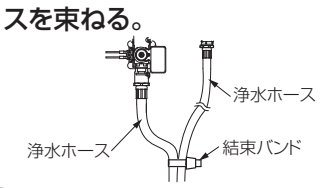
止水栓よりも左に固定する場合(キャビネット内右側面に固定するスペースがない場合など)

浄水ホースが、**止水栓・混合水栓の給水ホース**の背面を通るように固定する。

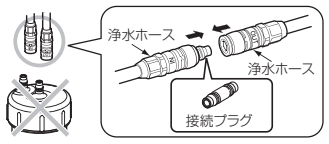


9 浄水ホースの配管接続

1. 結束バンドで2本の浄水ホースを束ねる。



2. 浄水ホースを製品に付属の接続プラグに接続する。（施工後の調整時まで浄水カートリッジには接続しません。）

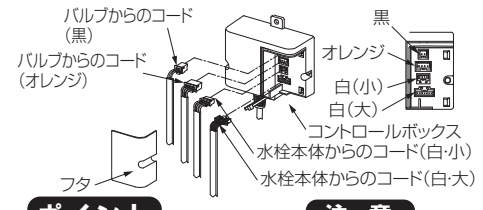


10 コントロールボックスの接続と設置

1. コントロールボックスの取付位置を施工完了図を参考に仮決めし、シャワーホースやフレキホースと4本のコードが絡まないようにコードを取り回しておく。

注 意
濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

2. コントロールボックスにバルブからのコード2本と、水栓本体からのコード2本を差し込む。



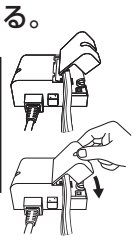
ポイント
下のコードから順に差し込む。

注 意
コードを差し込んだ後、軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
※作動不良の原因となります。

3. コード類を溝に収納しフタを閉める。

注 意
コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火·ショート·感電の原因になります。

注 意
爪2か所を差し込んでから、矢印方向に蓋を装着してください。

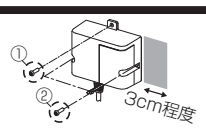


4. コード類を結束バンドでしっかりと固定する。

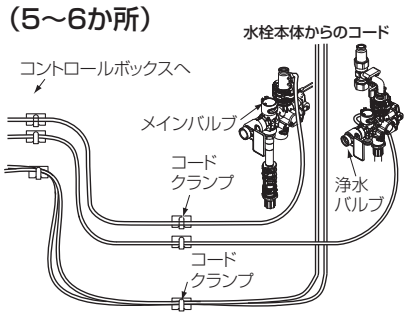
ポイント
コードを引っ張ったときに、コネクター部に力がかからないようにする。

5. 側板もしくは、背板に図のように2本のビスで固定する。②のビスは左右どちらかに固定する。ステンレスキャビネットなどの場合は、補強木に固定する。ビスが使用できない場合は、付属の両面テープで固定する。

注 意
壁に取り付け時、コントロールボックス右側に3cm程度の空間を確保ください。
※蓋を開ける際に、指を入れる空間を確保するためです。

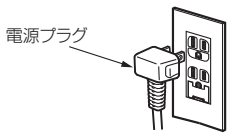


6. キャビネットの背板にコードクランプを取り付けて、コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。（5～6か所）

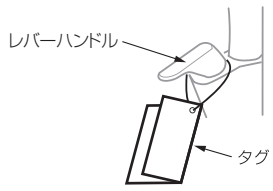


ポイント
上図の「コードクランプ」は、コントロールボックス・バルブよりも下方に設置してください。
※漏水や結露により水滴がコードを伝わった場合に、コネクターに到達しないようにするためです。

7. 電源プラグをコンセントに接続する。

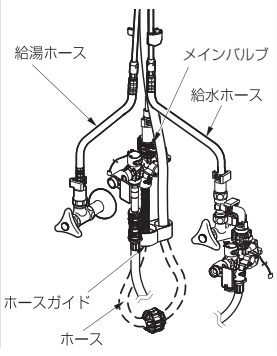


8. 施工完了後、タグを水栓本体のレバーハンドルに取り付けてください。

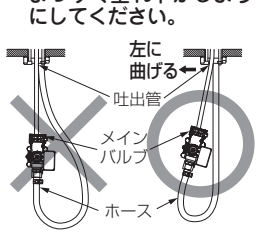


11 ホース収納性の確認

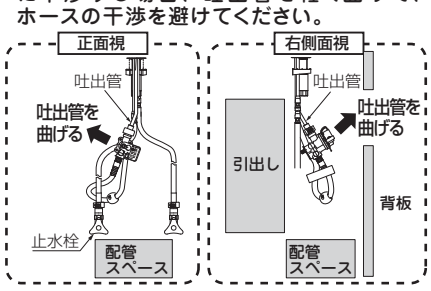
1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが給水・給湯ホース・メインバルブ等と干渉せず、スムーズに上下に動くことを確認する。



ポイント
●ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を左に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。



●ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。



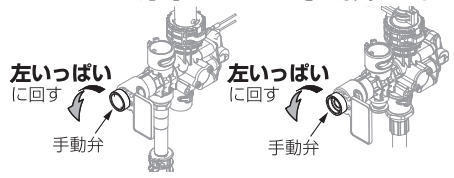
4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1 作動確認

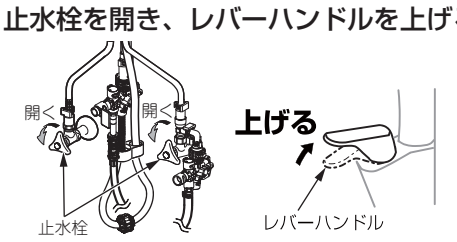
1. 電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。

2. メインバルブと浄水バルブの手動弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。

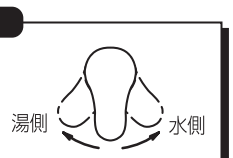


注 意
手動弁は工具を使わず、手でゆっくり、左いっぱいに回してください。
※止水不良（センサーに手をかざしても水が止まらない）の原因となります。

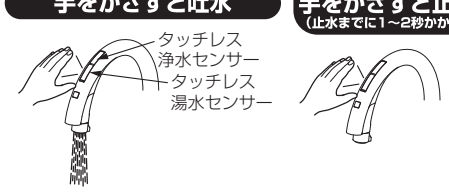
3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。



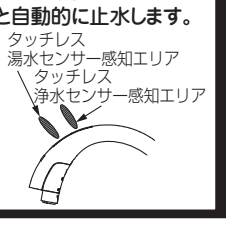
注 意
高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。



4. センサーに手をかざして、タッチレス湯水センサー、タッチレス浄水センサーの吐水・止水を確認する。



ポイント
●感知エリアは下図のようになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。
●タッチレス浄水センサーで吐水した場合は、レバーハンドルに関係なく、吐水・止水します。流量調節はできません。



5. 自動センサーON/OFFスイッチを押し、光っている状態で手を吐水口の下に差し出して、自動センサーの吐水・止水を確認する。

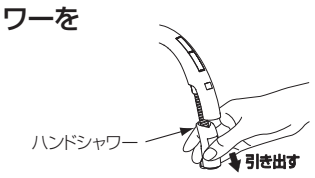
ポイント
●感知範囲は右図のようになっています。
●1分間吐水が続くと自動的に止水します。

2 ストレーナーの掃除

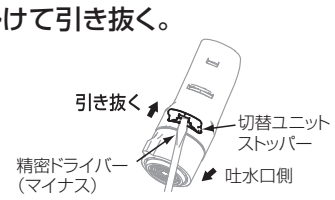
注 意
作動確認後、ストレーナーを必ず掃除してください。
※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナーの掃除

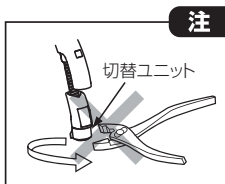
1. ハンドシャワーを引き出す。



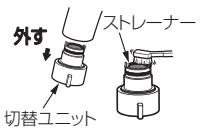
2. 裏側にある切替ユニットストッパーの溝部に精密ドライバー（マイナス）などを掛けて引き抜く。



注 意
切替ユニットを工具等で回さないでください。
※破損の原因となります。



3. 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



4. 切替ユニットを取り付け、切替ユニットストッパーをはめる。

ポイント
取り付けるときは、位置合わせの向きが合うように差し込む。

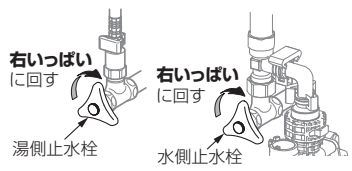
注 意
切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。

確 認
取り付け後は切替ユニットが抜けてこないこと。

ストレーナーの掃除（メインバルブ）

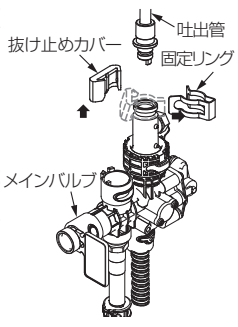
ストレーナーは、メインバルブと浄水バルブに入っています。

1. 水側（湯側）の止水栓を右いっぱいに回して閉じる。

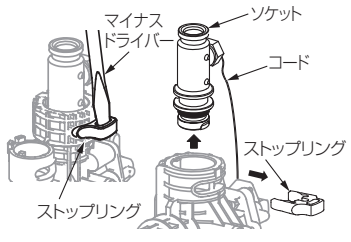


2. レバーハンドルを開け、一度湯水センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。

3. メインバルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管からメインバルブを外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。

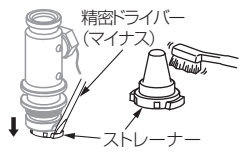


4. ストップリングをマイナスドライバーで外し、ソケットを外す。

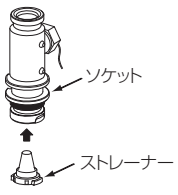


注 意
ソケットを外す際、ソケットから出ているコードが引っ張られないようにしてください。
※断線して使用できなくなる恐れがあります。

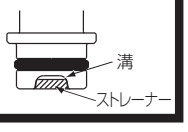
5. ストレーナーを精密ドライバー（マイナス）で外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



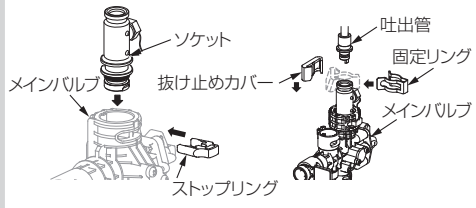
6. ストレーナーをソケットに取り付ける。



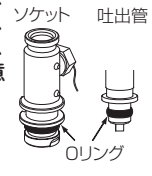
ポイント
ソケットの溝にストレーナーをしっかりとはめ込む。



7. ソケットをメインバルブに取り付け、ストップリングをはめる。メインバルブを吐出管に取り付け、固定リングと抜け止めカバーを取り付ける。



注 意
ソケットを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。

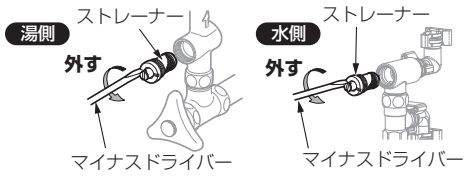


寒冷地仕様の場合

1. 水側（湯側）の止水栓を右いっぱいに回して閉じる。

2. レバーハンドルを開け、一度湯水センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。

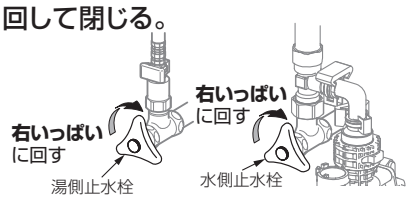
3. ストレーナーを取り外し、ゴミを歯ブラシ等で洗剤を使わずに洗い流す。



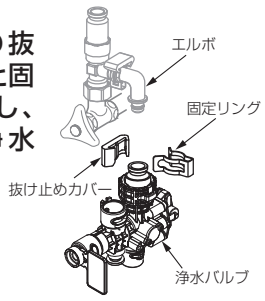
4. ストレーナーを取り付ける。

ストレーナーの掃除（浄水バルブ）

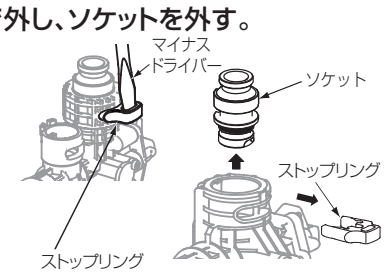
1. 水側（湯側）の止水栓を右いっぱいに回して閉じる。



2. 浄水バルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、エルボから浄水バルブを外す。

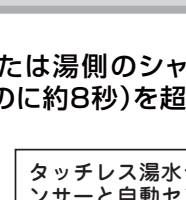


3. ストップリングをマイナスドライバーで外し、ソケットを外す。



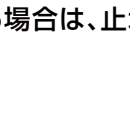
4. ストレーナーを精密ドライバー（マイナス）で外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

5. ストレーナーをソケットに取り付ける。

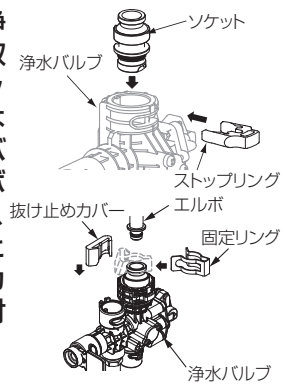


ポイント

ソケットの溝にストレーナーをしっかりとはめ込む。

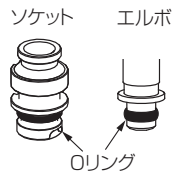


6. ソケットを浄水バルブに取り付け、ストップリングをはめる。浄水バルブをエルボに取り付け、固定リングと抜け止めカバーを取り付ける。



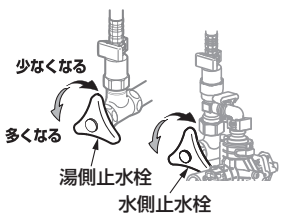
注　意

ソケットを取り付ける際、およびエルボに接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。



3 流量の調節

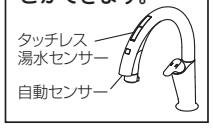
レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側のシャワー吐水の流量が約8L/min（1リットルの容器をいっぱいにするのに約8秒）を超える場合は、止水栓で流量調節する。

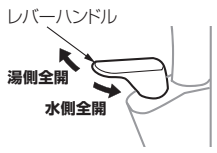


ポイント

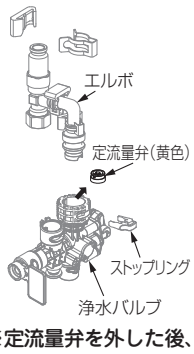
- 浄水センサーによる吐水（水専用吐水）は、定流量弁を装着していますので、一定の流量（3～5L/min）以上は出ません。
- 湯と水の流量が同じになるよう調節してください。

タッチレス湯水センサーと自動センサーは、レバーハンドルで吐水する流量を調節することができます。





低圧時、浄水センサーで吐水した水の流量が不足しシャワーが乱れる場合には、定流量弁を外してください。

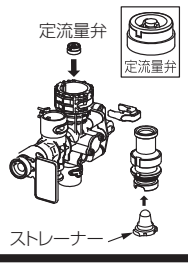


ポイント

- 低圧時、浄水センサーで吐水すると、シャワー散水状態が乱れ、シャワーとして使えなくなります。（目安の圧力：流動時0.1MPa以下）
- 定流量弁が取り外しにくい場合、ラジオペンチ等で定流量弁を取り出してください。

注　意

定流量弁を取り付ける場合、向きに注意してください。
※向きを間違えると、水が止まらなくなったり、漏水の原因となります。



※定流量弁を外した後、取り外した箇所から漏水がないか確認します。

4 お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、電源プラグを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。
※浄水カートリッジは取り付けずに、そのままお客さまにお渡ししてください。

キッチンくるりんと接続の場合

流量調節はキッチンくるりんに同梱の取付設置説明書に従ってください。

5. 引渡前の確認

注　意

メインバルブの手動弁を左いっぱいに回した状態で、プレートをしっかり差し込んでください。
※プレートがしっかり差し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。

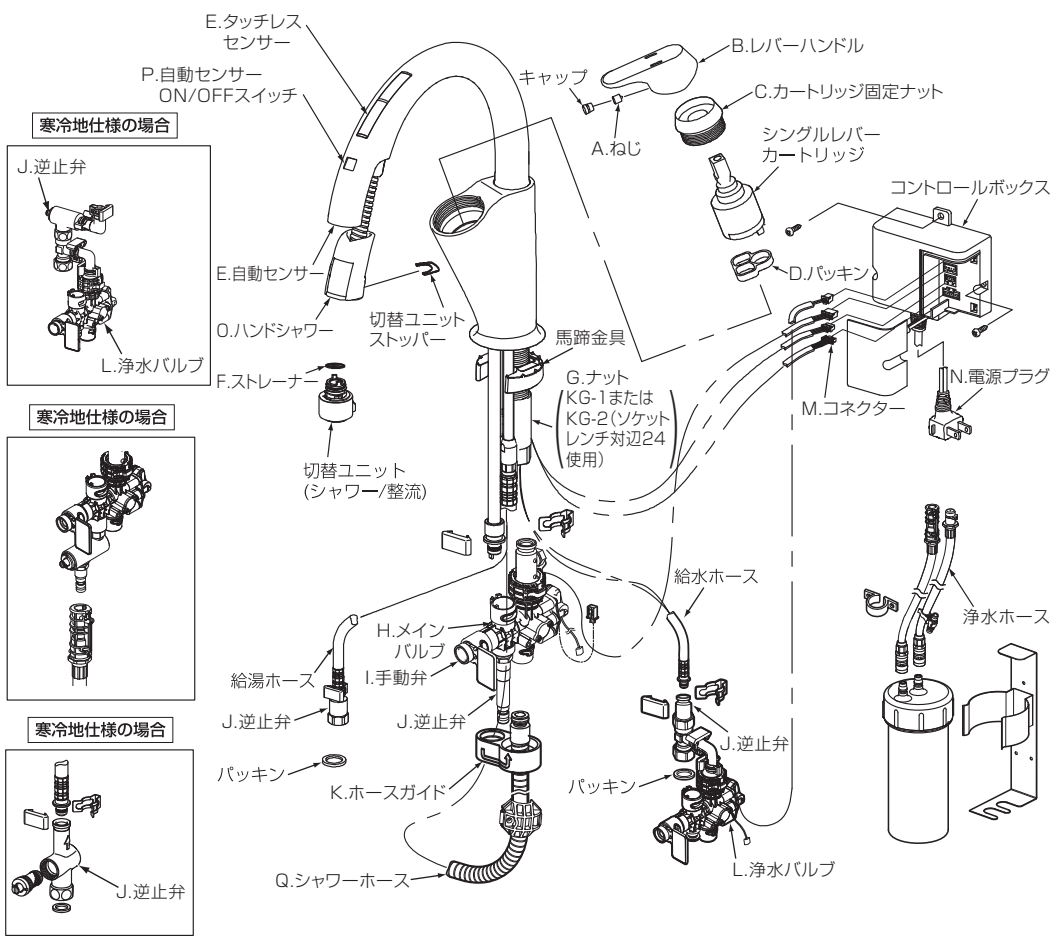
お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。
確認後はレバーハンドルを下げ、自動センサーON/OFFスイッチを押し消灯状態にしてください。

現　象	点　検　内　容	点検箇所	処　置	参　照　項　目
吐水しない	止水栓は開いているか？	ー	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか？	B	レバーハンドルを開く。	
	コンセントに電気がきていないまたは停電中ではないか？	I	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く（右いっぱいに回す）と吐水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて（左いっぱいに回す）ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	電源プラグがコンセントに差し込まれているか？	N	電源プラグをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていないか?	M	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか？	ー	回復するまで待つ。	
	逆止弁が壊れていないか？（凍結等により）	J	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	ハンドシャワーが外れていないか?	O	ハンドシャワーを吐水口に差し込む。	取扱説明書「ハンドシャワーを使う」
	自動センサーON/OFFスイッチが赤色点滅していないか?	P	レバーハンドルを水側にし、タッチレス湯水センサーで吐水する。	取扱説明書「自動センサーを使う」
	自動センサー ON/OFFスイッチが白色点滅していないか?	P	コネクターが外れていないか確認する。接続されている場合はサーミスタの故障と考えられる。	交換してください。
流量が少ない	圧力は十分か？	ー	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか？	ー	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか?	ー	抵抗となる障害物を取り除く。	
	浄水ホースが折れ曲がったり、ねじれたりしていないか?	F	ホースの折れ曲がり、ねじれがあれば取り除く。	
	レバーハンドルを絞りすぎていないか?	B	レバーハンドルを開く。	
止水しない	ゴミかみはないか？	D	ゴミ等を水で洗い流す。	
	キズはないか？	D	キズがあれば部品を交換する。	
	カートリッジ固定ナットにゆるみはあるか？	C	カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなることがあります。	
	手動弁が開いてないか？	I	手動弁を閉じる。（左いっぱいに回す）	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか？	E	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か？（ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?）	J	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	ー	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか?	ー	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナーの掃除」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	G	ナットをしっかり締める。	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	A	ねじをしっかり締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、バルブと干渉していないか？	H・K・Q	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」

キッチンくるりんと接続の場合

キッチンくるりんに同梱の取付設置説明書の『4.引渡前の確認』についても点検を行ってください。

注　意

※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。
- 水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるためで、故障ではありません。
- センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、バルブの動作音によるもので、故障ではありません。